

飛鳥Ⅲ乗船レポート(4) クルーズ編

個人会員 岡島 純

乗船初日

神戸港中突堤旅客ターミナルで乗船手続きが行われるが、待合室に椅子が並べられているものの狭いためにゆとりがない。

キャビンごとに受付時間が知らされているが、開始そのものが遅延していたため、乗船までに時間を要した。手荷物預ける場所が分かりにくく係員がどこにいるか探す必要があり、運営方法に課題はある。当初案内されていたデジタル乗船証・モバイルキーは導入できておらず、紙の乗船券と健康チェックシートを提示し乗船カードを渡された。

結果的に紙の乗船券が手元に残ったことは乗船記録として良かった。

乗船口では外国船のように顔写真撮影なく乗船カードをタッチするだけであった。

キャビンにはデビュークルーズ記念品として飾り皿と切手シートが置かれていた。

紙の使用削減に伴い船内新聞はなくスケジュールは全てタブレット端末で見るようになっていた。

クルーズで楽しみなのは食事であるが、残念ながら期待外れであった。

デビュークルーズを祝ってお見送り花火を見ながらの神戸港出港。

Wifiは無料で利用できるので接続を試みたが繋がらず翌日問い合わせることにした。

四国沖を航海し、一路鹿児島に。

夜のショーはなく、花火の余韻を感じるだけであった。

乗船2日目

終日航海日。

残念なことに船内新聞がなくタブレット端末からイベントなどを検索することになっており、

まずはWifi接続相談に行く。相談場所にはレセプション前を塞ぐ長蛇の列ができていた。

結果的には船内Wifiシステム障害で接続できないため別回線で接続できるとのことであるが、並ばせる前に状況説明し、別回線案内を船内TVやサイネージで伝えれば並ばずに済ませるはずであるが、何らの対応を行わず乗客の立場に立ったサービスがまったくなされない船と感じた。

本船は従来のクルーズで行われるイベントがないと知らないとガッカリするかもしれない。

もしかしたら本クルーズだけであったかもしれないが。定番のダンス教室、ホースレース、ビンゴゲームアフタヌーンティなどは実施されていない。

予約制のイベントがあり、すぐに満席となっているので参加できないことが多く見られた。

運よく船内のアートツアーに予約ができアスカプラザの壮大な漆芸作品、各レストランに飾られている作品を1時間近くかけて鑑賞した。中でも11デッキにあるヒストリアエリアには初代飛鳥にあった飛鳥ラウンジに展示されていた「檜原丸」の絵画が戻ってきていた。ただ展示品が高い場所にあるため見るのには苦労する。

この日の夜はウエルカムパーティーがアスカプラザで開催。船長、機関長、ホテルマネジャ3名が階段踊り場に立ち挨拶が行われる。ここの広さでは参加者数から狭い感じを受ける。

リュミエールシアターで行うべきと思う。

乗船3日目

鹿児島入港時は開聞岳がくっきりと見え、桜島の噴煙はなく水蒸気が立ち上るのを見ながら入港。

港からシャトルバスが運行されており、市内に行くには便利である。筆者は半日桜島観光に参加し、フェリーで桜島までバスに乗りそのまま乗船し、北岳、南岳を見ることができる展望台を廻った。

昼過ぎに戻ってきて遅い昼食をエムズガーデンで摂った。夕食は予約できたノブレスに。

追加料金が不要であり、ここが本船のメインレストランであるべきであった。

食器はマイセンやバカラが使用されており、高級感を醸し出していた。

夜のショーは竹取物語をオマージュしたパフォーミングアーツで3人のダンサーとデジタル映像によるエンタテインメント「KAGUYA」であった。30分のパフォーマンスであるが、感動的な内容ではなかった。

やはりブロードウェイ的なショーが見ごたえがあるのではないかと感じた。

乗船4日目

長崎に9時入港。長崎くんちの初日であって、街は賑やかであった。

この日は長崎くんち観覧や市内観光のツアーがあったが、数回訪問しているので自由観光で稲佐山にロープウェイで行った。その後長崎駅前で龍踊が演じられているのに遭遇し見る事ができた。

昼食は船内で摂り、何もイベントがなかったためブックス&カフェで読書時間とした。

ブックス&カフェはソフトドリンクコーナーがあり、自由に飲むことができる良い場所である。

夕食は席料が必要なイタリアンレストランアルマーレを予約できたので期待して行く。

室内は千住博氏の壁画で飾られていた。ワゴンで食材をテーブルまで運んできて調理法を紹介説明した後に食材を選んでいく方法であった。

なかった。量は調整できるので、多くの種類を食べることができる。

夜はショーがなくDEEP OCEANと題する映像を見せるだけであった。

乗船5日目

上五島に8時に到着するが、昨夜台風22号の影響で本来は四国沖経由で神戸に帰港予定であったが、出航を17時から15時に変更し、瀬戸内海経由に変更することが伝えられた。

そのため、上五島観光はすべて中止となり、土産物店行きの連絡バスが運行された。

観光ツアーが中止されたため上陸しない乗船客のため船内でイベント開催があるかと思われたが

出航まで何もなかった。この点クルーズデレクターの腕の見せ所ではなかったかと思われる。夕食はbuffetがあるエムズガーデンが夜だけ一部グリルレストランになるパペンブルグで摂った。ここは色々なスパイスで味わう炭火焼グリルであり、食材と一人前の量を説明があり、後部デッキで焼き上げる。

夜のショーはミュージックトリップと称して1960年代からの洋楽中心に演奏が行われた。

終了後すぐクイズNightアート編としてゲームがビスタラウンジで行われた。

夜のショーを見て6デッキから11デッキに移動したが、すでに席が埋まりつつあった。

入口で回答用紙は配布されず、手を挙げた人に渡す方式であった。

クイズは船内のアート作品にちなんだ問題が10問出され正解数によって賞品が渡された。

参加人数に制約がないようで何人が来ていたか不明であった。

筆者の結果は9問正解し、飛鳥Ⅲマグネットを入手できた。

乗船6日目

航海日(瀬戸内海)

台風22号の影響で急遽航路変更となり、昼間の瀬戸内海を航行することとなった。

航路図が紙で配布され、船内放送で因島大橋、瀬戸大橋、明石大橋の通過時間が知らされた。

因島大橋を通過するため来島海峡は航行せず点在する島々の間を抜けながらの航海であった。

瀬戸大橋を過ぎたところにジャンボフェリーのあおいを遠くに見ることができた。

明石大橋を20時40分ころ通過したので神戸入港9時までに12時間余りあり、

淡路島東岸付近に停泊して時間調整していた。

乗船7日目

神戸着は9時であり、荷物は6時までに出しおけばよいので前夜に荷造りを急がなくて楽であった。

ここでも紙削減のため、乗船時に付けたタグをそのまま使用し新たなタグ配布はなかった。

下船時までキャビンを使用できたので朝食後ゆっくり過ごすことができた。

朝食時に宮崎カーフェリーが追い越しいき、後方に砕氷艦「しらせ」が神戸港に向けて航行しているのが見えた。

荷物はデッキ毎に並べられており、受取は容易にできた。



銘板



出港時の花火



ウエルカムパーティー



ギャラリーカフェ



ブックス&カフェのドリンクコーナー



ブックス & カフェ



食材を見せるアルマーレ



桜島へのフェリー



シースピカ



宮崎カーフェリー



砕氷艦 しらせ